

**細胞診で意義不明な異型腺細胞と診断され子宮癌が疑われた患者から得られた細胞診標本を使用した異常腺病変の形態計測学的診断（米国婦人科腫瘍グループ研究：研究番号 0171、8007）**

『研究対象者の方へ』

当研究は、腺癌の診断精度の向上を目的に、九州大学大学院医学研究院保健学部門において行う研究です。使用する標本は、下記【対象】で選択された細胞診標本です。なお、下記【対象】に該当する方で、当研究に参加されることを希望されない場合は、お手数ですが下記連絡先にご連絡をお願いいたします。

【はじめに】

子宮癌（子宮頸部癌と子宮体癌）には、大きく分けて扁平上皮癌と腺癌があります。しかし、腺癌は扁平上皮癌に比較して、罹患率の増加とともに、診断が難しいという、問題を抱えています。実際に「異型腺細胞がみられました」と診断されても、腺癌であるとは限らず、炎症性疾患の場合もあれば、扁平上皮癌である場合もあります。正確に腺癌と診断することは、治療や病気の進行具合との関係から、重要なことです。

今回は特に腺癌に焦点をあてて、細胞診検査の結果と、病理学的最終診断との診断の正確性を検討し、腺癌の診断精度の向上を目的とする研究です。

【研究内容】

細胞診標本に出現する異型細胞を写真にとり、画像解析ソフト（Image J）を使用して細胞の情報（クロマチン分布、核間距離、核小体）を計測します。この情報を病理学的最終診断と比較検討し、腺癌に最適な診断基準を作成します。

【対象】

下記①～③をすべて満たされた患者様で、その細胞診標本が、GOG-Japan（米国婦人科腫瘍グループ日本支部）において、本研究に適切であると判断された 55 名の患者さんが対象です。①平成 15 年 3 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日の間に、埼玉医科大学・川崎医科大学・鳥取大学・東北大学・慶應義塾大学・鹿児島市立病院および九州がんセンターの婦人科を受診され、子宮癌検診細胞診検査をうけた患者さん、②細胞診検査で『意義不明な異型腺細胞（atypical glandular cells of undetermined significance (AGUS or AGCUS)）』と診断された患者さん、③米国婦人科腫瘍グループ研究（研究番号 0171, 8007）（意義不明な異型腺細胞における MN 蛋白発現の子宮頸部上皮内腫瘍、癌の生物学的診断マーカーとしての有用性に関する研究）にご参加いただいた患者さん。

【研究予定期間】

研究を行う期間は平成 31 年 3 月 31 日までと考えています。

【医学上の貢献】

正確に腺癌を診断することにより、より早期に適切な治療への選択が可能になると考えられます。

【データの二次利用】

将来的にデータの二次利用の必要が生じた場合は改めて倫理委員会に申請して承認されてから使用いたします。

【研究機関・組織】

九州大学大学院医学研究院保健学部門 教授 加未 恒壽  
医学研究院保健学部門・助教・渡邊 壽美子

### 【共同研究機関】

埼玉医科大学国際医療センター・教授・藤原 恵一

川崎医科大学病理・教授・森谷 卓也

鳥取大学医学部附属病院 がんセンター・センター長、教授・紀川 純三

鹿児島市立病院産婦人科・部長・波多江 正紀

東北大学大学院医学系研究科婦人科分野・教授・八重樫 伸生

慶應義塾大学大学院医学研究科外科系専攻産婦人科学・教授・青木 大輔

九州がんセンター婦人科・部長・斎藤俊章

### 【連絡先】

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

九州大学大学院 医学研究院保健学部門

助教 渡邊 壽美子

TEL : 092-642-6700

FAX : 092-642-6700

本研究が載っている HP

1) 保健学科の HP : <http://www.shs.kyushu-u.ac.jp/app/modules/research/>

2) Study of Pap Smears From Patients Enrolled on Clinical Trial GOG-171 :

<http://clinicaltrials.gov/ct/show/NCT00898144>